

**A**

ア ② イ ① ウ ② エ ① (2点×4)

ア「与」の字には、(1)「与える」／(2)「与る」「与かる」／(3)「与する」という三つの訓読みとそれに伴う意味がある。三つの訓読みとその意味を、それぞれ以下にまとめておく。 (1)「あたえる」《あたえる》／(2)「あずかる」《関わりができる・関係する》／(3)「くみする」《仲間になる》。(1)の意味をもつ二字熟語には、選択肢①「寄与」・③「所与」・④「給与」以外にも「与奪」「供与」「授与」「賞与」「貸与」「付与(賦与)」など多くある(ちなみに③「所与」は《前提として与えられているもの》という意味)。(2)の意味で用いられる熟語は選択肢②「関与」、他には「参与」くらいしかない。(3)の意味で用いられる熟語は「与党」(《政治権力に与する党・「野党」》)「与国」(《同盟関係にある国・同盟国》)の二つである。

イ「陥」の字には、(1)《落ちる・落とす》／(2)《欠ける・不足する》という二つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には、選択肢②「陥没」・③「陥落」・④「陥穽」「陥穽」は「かんせい」と読み《落とし穴・策略・計略》という意味)、他には「陥入」がある。(2)の意味で用いられる熟語は選択肢①「欠陥」くらいしかない。

ウ「率いる」とは《多くの人を引き連れて行く》という意味である。

①「率先」③「統率」④「引率」の「率」が同じ意味であり、②「率直」の「率」だけ意味が異なるため、②が正解。

「率」の字には、(1)《全体をまとめて率いる》、(2)《ありのまま・すなお》、(3)《急な・にわかな》、(4)《全体に対する割合》という四つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語に「引率」「統率」「率先」があり、(2)の意味で用いられる二字熟語には「率直」「真率」がある。また、(3)の意味で「卒然」「軽率」があり、(4)の意味で「確率」「効率」「能率」「比率」「倍率」「税率」などがある。「率」は多義的な漢字である。

エ「易しい」は「やさしい」と読む。

②「簡易」、③「平易」、④「難易」の「易」が同じ意味であり、①「不易」の「易」だけ意味が異なるため、①が正解。

「易」の字には、(1)《やさしい・くしやすい》、(2)《かえる・かわる》、(3)《うらない》、(4)《儒教の経典・易経》という四つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には「簡易」「平易」「難易」の他に「容易」がある。(2)の意味をもつ二字熟語に「不易」(《いつまでも変わらないこと・不変》という意味)、「交易」「貿易」「改易」がある。(3)の意味をもつ二字熟語に「易学」「易占」がある。

**B**

オ ① カ ④ キ ③ ク ④ ケ ③  
コ ④ サ ② (2点×7)

オ「望」の字には、(1)《遠くを見渡す》／(2)《望む・願う／望み・願い》／(3)《人気・良い評判》という三つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には、本文の「展望」、選択肢②「一望」③「遠望」④「眺望」がある。(2)の意味で用いられる熟語は、選択肢①「希望」以外に「願望」「待望」「熱望」「切望」「失望」「絶望」など多数ある。(3)の意味で用いられる熟語は「人望」「声望」「名望」などがある。

カ「現」の字には、(1)《実際の・今の》／(2)《見えなかったものや隠れていたものが見えてくる・現れる》という二つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には、本文の「現代」、選択肢①「現物」②「現在」③「現行」以外に「現存」などがある。(2)の意味で用いられる熟語は、選択肢④「現象」以外に「現像」「出現」「実現」「具現」「再現」「体現」「表現」など多数ある。

キ「反省」とは《自分のしたことを、もう一度考えてみる》という意味である。

①「三省」、②「省察」、④「内省」の「省」が同じ意味であり、③「帰省」の「省」だけ意味が異なるため、③が正解。

①「三省」とは《何度も反省すること》、②「省察」とは《自分を省みて、その善悪を考えること》、④「内省」とは《自分の考え、思想、言動などを深く省みること》、という意味である。同じ意味の「省」を使った二字熟語に、「自省」(《自分の言動を自ら省みること》)もある。

③「帰省」とは《郷里に帰ること・また、郷里に帰って父母や師の安否を尋ねること》という意味である。

「省」の字には、(1)《省みる・振り返って考える》、(2)《様子を問う・親や師の安否を尋ねる》という二つの意味がある。

(1)の意味をもつ二字熟語には「反省」「三省」「省察」「内省」「自省」があり、(2)の意味で用いられる一般的な二字熟語は「帰省」くらいしかない。

ク「情」の字には、(1)《気持ち・感情》、(2)《物事の実際のありさま》、(3)《おもむき・味わい》という三つの意味がある。

(1)の意味をもつ二字熟語には、選択肢④の「叙情」(「叙情」は《自分の感情を表現すること》)以外に「情熱」「激情」「純情」などがあり、(2)の意味で用いられる熟語には本文の「実情」、選択肢①「内情」②「情勢」③「事情」以外に「情報」「情景」「政情」などがあり、(3)の意味で用いられる熟語には、「情趣」「诗情」「風情」(「風情」の読み方は「ふぜい」)などがある。

ケ「謝礼」と、①「謝意」、②「謝恩」、④「月謝」の「謝」が同じ意味であり、③「謝絶」の「謝」だけ意味が異なるため、③が正解。

「謝」の字には、(1)《礼を言う・お礼》、(2)《あやまる・わびる》、(3)《ことわる》、(4)《おとろえる・いれかわる》という四つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語は「謝礼」「謝意」「謝恩」「月謝」以外にも「感謝」「深謝」などがあり、(2)の意味で用いられる二字熟語には「謝罪」「陳謝」がある。また、(3)の意味で「謝絶」(例えば「面会謝絶」のように使う)があり、(4)の意味で「代謝」がある。このように、「謝」は多義的な漢字である。

コ「業」の字には、二種類の音読み「ギョウ」「ゴウ」と訓読み「わざ」の三つの読みにしたがって、三つの意味がある。

(1)「ギョウ」《仕事・成し遂げる事柄》、(2)「ゴウ」《報いを招く前世の行い》(もとは仏教用語)、(3)「わざ」《わざ》という三つの意味である。(1)の意味をもつ二字熟語には、本文の「業界」、選択肢①「業務」②「業績」③「職業」以外に「業者」「企業」「授業」「修業」などがあり、(2)の意味で用いられる熟語には選択肢④「因業」(「因業」の読み方は「いんごう」)以外に「自業自得」などがあり、(3)の意味で用いられる熟語には、「神業」「仕業」「早業」「寝技」「軽業」「業師」などがある。

サ「自白」とは《隠さず全てを自ら申し述べること》という意味である。

①「白状」、③「敬白」、④「独白」の「白」が同じ意味であり、②「明白」の「白」だけ意味が異なるため、②が正解。ちなみに③「敬白」とは《相手を敬って申し上げること》という意味であり、「敬具」「謹白」などと同様、手紙の末尾に置かれる二字熟語である。

「白」の字には、(1)《白い・白くする》、(2)《もうす・告げる》、(3)《明るい・はっきりしている》、(4)《なにもない》、(5)《せりふ||科白》という五つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語に「白衣」「紅白」「漂白」「精白」などがあり、(2)の意味で使われる二字熟語は「自白」「白状」「敬白」「独白」「謹白」以外に「告白」「表白」「建白」などがある。また、(3)の意味では「明白」以外に「白日」があり、(4)の意味では「空白」「白紙」などがある。以上より「白」は多義的な漢字である。